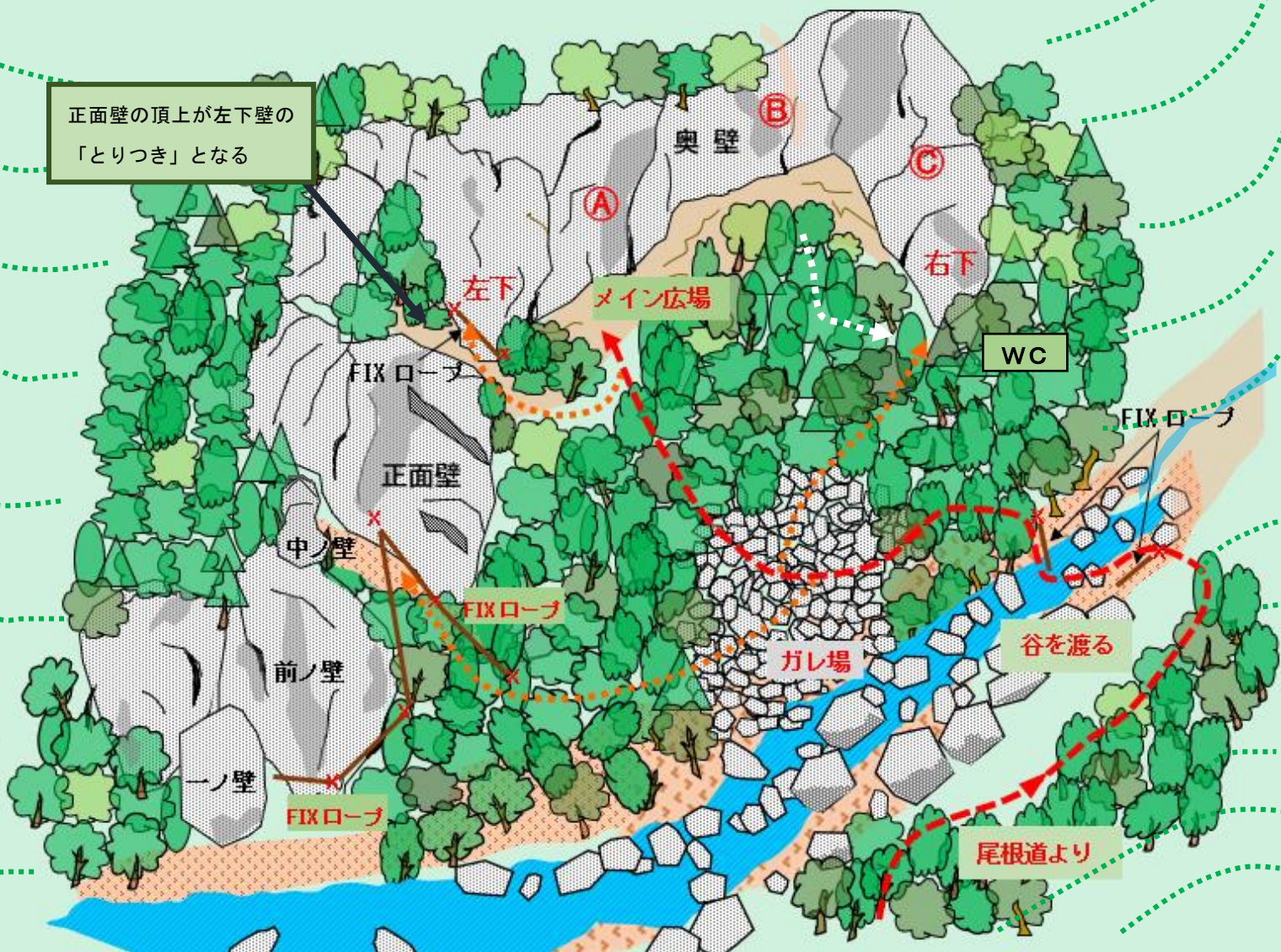


新岩 エリアガイド 【2024年10月版】

岩場へのアプローチ

- ・宝塚駅の北東部に長尾山霊園がある。
- ・駐車：長尾山霊園のロータリーを過ぎた先の左側にスペースがある辺りに車を停める。
※道路に対して直角に停めること。
- ・少し霊園のほうに戻ると、右手の自然林の中に細いハイキング道があるのでそれを辿る。200m程度進むとY字型の分岐路があり、右側に進む。
※左に行くと東高座岩
- ・道は次第に下降路となり、展望の開けた場所からガレ場に入る。
- ・ガレ場の末端辺りから右側に入るとフィックスロープがある。林間のつづら折り状の道を行き、フィックスロープで溪谷に降りる。その谷の対岸に上がり、左手に進むと岩場に至る。
- ・行きは20分、帰りは30分程度。





エリア紹介

新岩は多数の岩からなる岩壁群であり、シングルピッチ以外に各岩を継続したマルチピッチが楽しめる。

奥壁

谷を渡ったあと左に折れて、ガレ場を越えてから右側に登って行けば奥壁の「メイン広場」に至る。奥壁はU字型をした岩壁であるが、その左右端の一段下がった箇所にもエリアがある。

奥壁左下エリア

奥壁メイン広場の左側に下る道があり、その先のフィックスロープを辿ると「左下壁」に至る。このエリアは「正面壁」の上部に当たるので、落石を生じることが厳禁とされたい。またエリアの下地は傾斜のあるスラブになっているため、ビレイヤーはセルフビレイをとること。

奥壁右下エリア

メインエリアの右端から下ればエリアに行きつくが、ガレ場から回り込んだ方が歩きやすい。

正面壁

ガレ場からメイン広場方向へ登らずにそのままガレ場を越えていき、谷沿いを辿るとフィックスロープがある。それを上がると正面壁の下部テラスに至る。(ガレ場での滑落に注意すること)

前ノ壁

正面壁の下部からフィックスロープをたどって左下に降りると「前ノ壁」のとりつきに至る。

一ノ壁

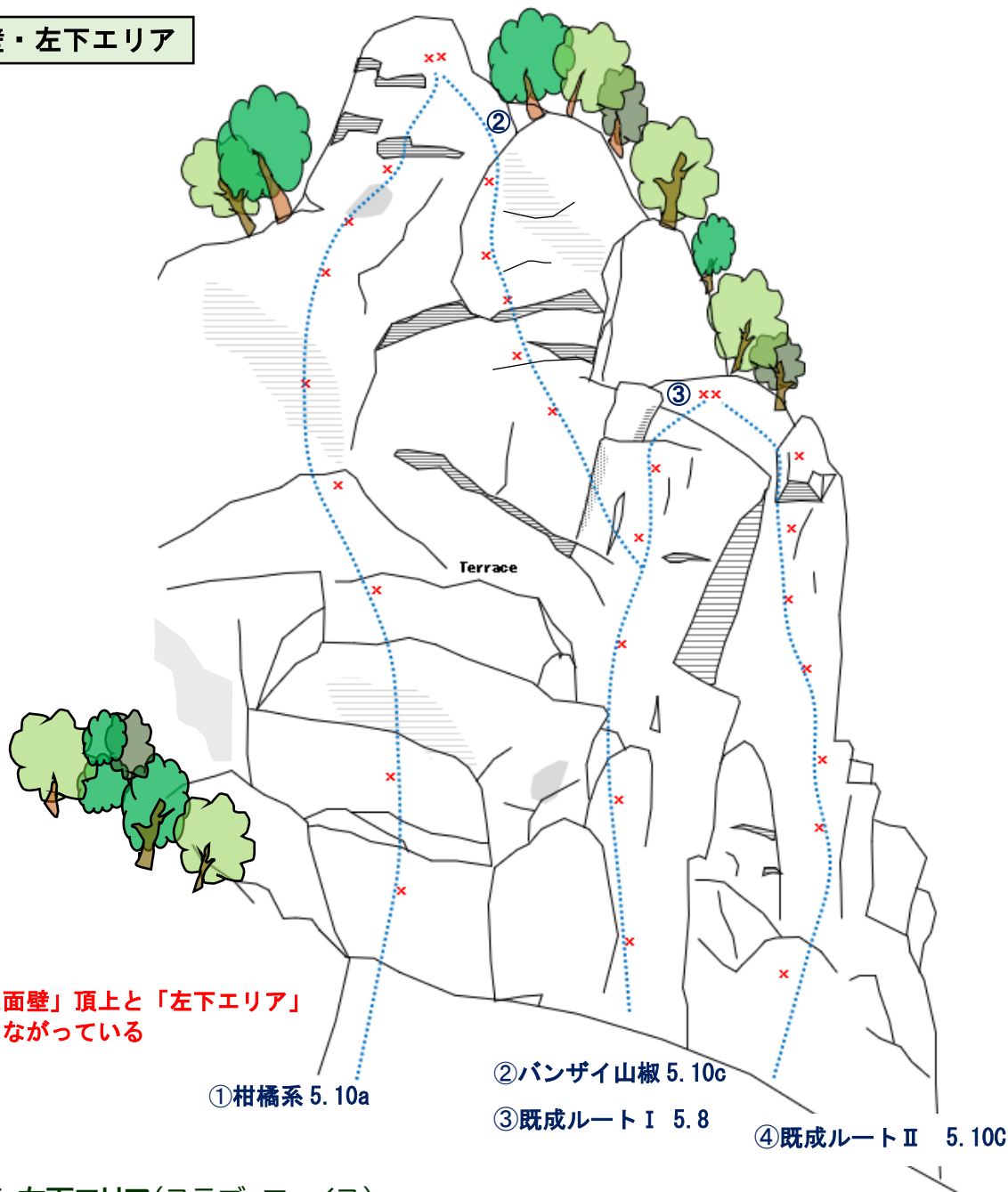
前ノ壁の下部を左下に回り込むと「一ノ岩」の中腹に至るので、そこから懸垂下降する。または渓谷を下ると「一ノ壁」のとりつきに至る。

その他

※トイレをできる箇所は少ないが、奥壁右下エリアの右奥に岩壁に囲まれて奥まったところがある。

※トポは岩場やルートの安全を保障するものではありません。岩場に行く場合は自己責任でお願いします。岩は脆い部分もあり落石の危険があるので、下にいる人は十分注意してください。(ヘルメット着用励行)

奥壁・左下エリア



「正面壁」頂上と「左下エリア」はつながっている

奥壁・左下エリア(スラブ、フェイス)

- ① 柑橘系 5.10a B 8本 (辻まい)
出だしは「左回り」と「右回り」がある。ラインとしては左回りの方が素直だがやや難しい。ルートのところどころにテラスがあるためレストできるものの、核心は休憩ポイントのない上部となる。
- ② バンザイ山椒 5.10c B 9本 (大藪皓平)
下部は③のルートとラインが兼用になる。ボルト4本目から左上にトラバース気味に登っていくが、何カ所かバランスが悪い部分がある。終了点は①のルートと共有になる。

※③～④は既成ルートの下部にハンガーを打ち足して終了点を設置したもの。終了点は③・④共有

- ③ 既成ルート I 5.8 B 5本
傾斜もなく、ところどころにしっかりと立てるスタンスがある。登りやすいルート。
- ④ 既成ルート II 5.10c B 7本
下部のボルト2～3本目あたりのホールドが細かいので核心部となる。上部は「ピナクル状の岩」が載ったような地形となり、クラック・クライミング的なムーヴを楽しめる。

注) 奥壁左下エリアのとりつきは斜面になっているので、ビレイヤーは「セルフビレイ」をとることが望ましい



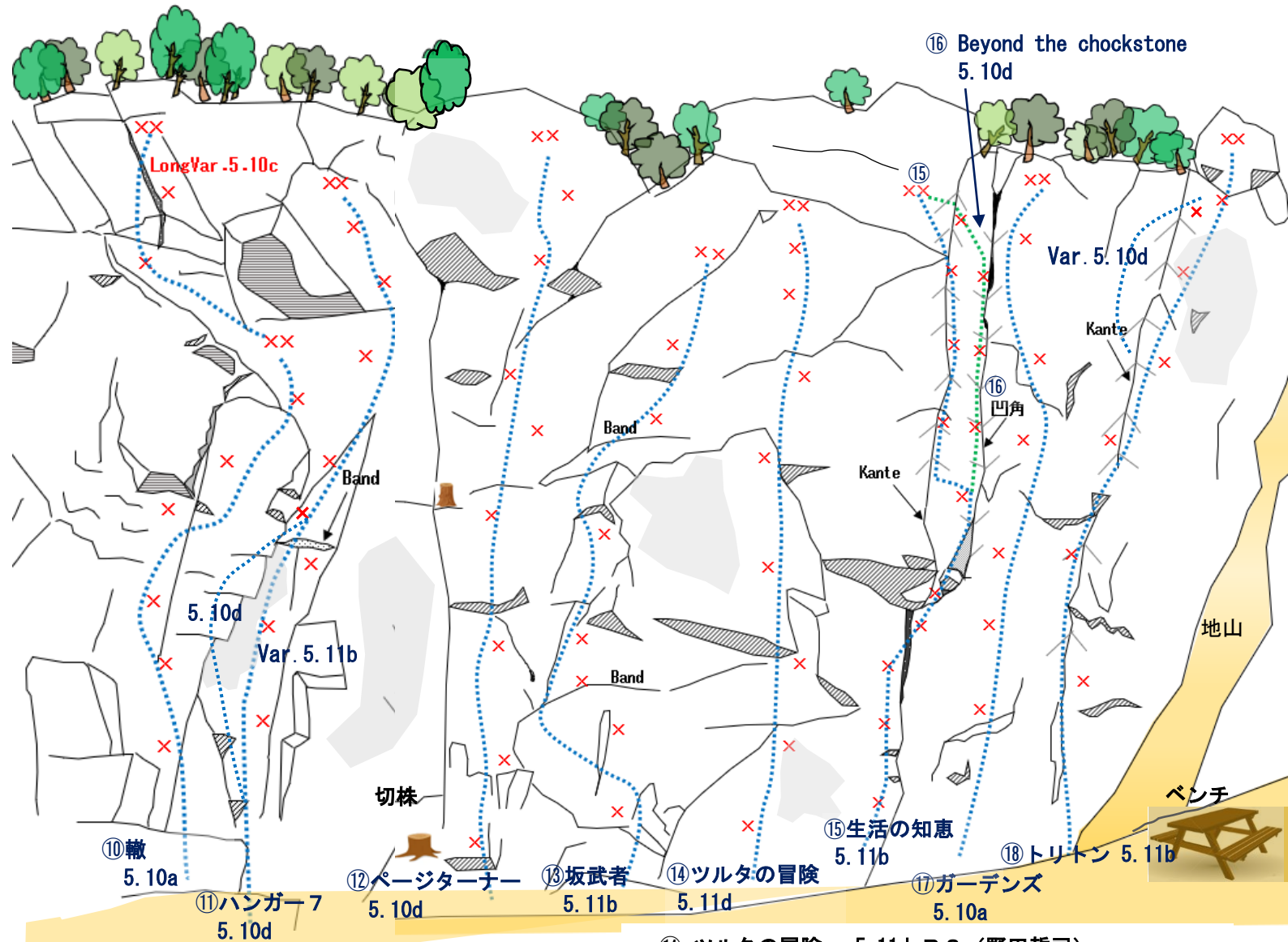
奥壁 ④ (フェイス)

- ① **ホビット 5.11b B 4本** (東秀磯)
 ホールドは大きく見えるものの外傾していて持ちにくいし、遠い部分もある。ボルト3本目から右のガバに行けば5.11bであるが、左のカンテをたどれば5.11cとなる。ルートが短いのでクリップに注意。
- ② **モデラート 5.9 B 9本** (東秀磯)
 カンテの側壁スラブに設定された長いルート。内容・距離共にウォーミングアップに最適。
 ※ボルト5本目の右に「確保支点」があるので、マルチピッチの練習が可能。
- ③ **Z (ゼット) 5.11a B 9本** (辻まい)
 モデラートの5本目から右に行き、印象的な「Z」型の地形を登る。スロープしたバンドへの乗り込みが核心。
- ④ **アンダーカバー 5.10a B 4本** (東秀磯)
 段状になった地形を登る。手足共にホールドが豊富であるが、意外にバランスが悪くて面白い。

- ⑤ **ドリーム・ファクトリー 5.11c B 5本** (東秀磯)
 緩い前傾壁にあらゆる方向のホールドが適所に点在するエリア1の好ルート。④のルートの2ピッチ目であるが、通常は継続する。ボルトの打たれた壁だけを登り、右側のクラックや壁は使用しない。
- ⑥ **バッシライン 5.10c B 11本** (東秀磯)
 ⑦のルートの5本目から左のカンテを越えて、スラブを登る。壁の最上部まで突き上げた長いルート。
- ⑦ **羽蝶蘭 5.10b B 8本** (東秀磯)
 見かけはよくないものの、登ってみると内容が濃くて面白いルート。的確なホールドを探せないとグレード通りには登れないためルートファインディング能力も必要とされる。
- ⑧ **防衛線 5.12b B 8本** (東秀磯)
 バンドやルーフ帯など、水平に変化のある地形を登っていくライン。カチ、縦クラック、アンダーカットなどのホールドが垂直または水平に配置されていて、手順を見出すことに面白みがある。最後は左の松の方に行かずにまっすぐ登る。
- ⑨ **ブラックサマー 5.10b B 8本** (東秀磯)
 下部はコーナー状になった左壁を使用して登る。最上部では右側に移るのがポイント。(上部の左側は脆いので登らないこと)

奥壁 (中央部)

Ⓑ



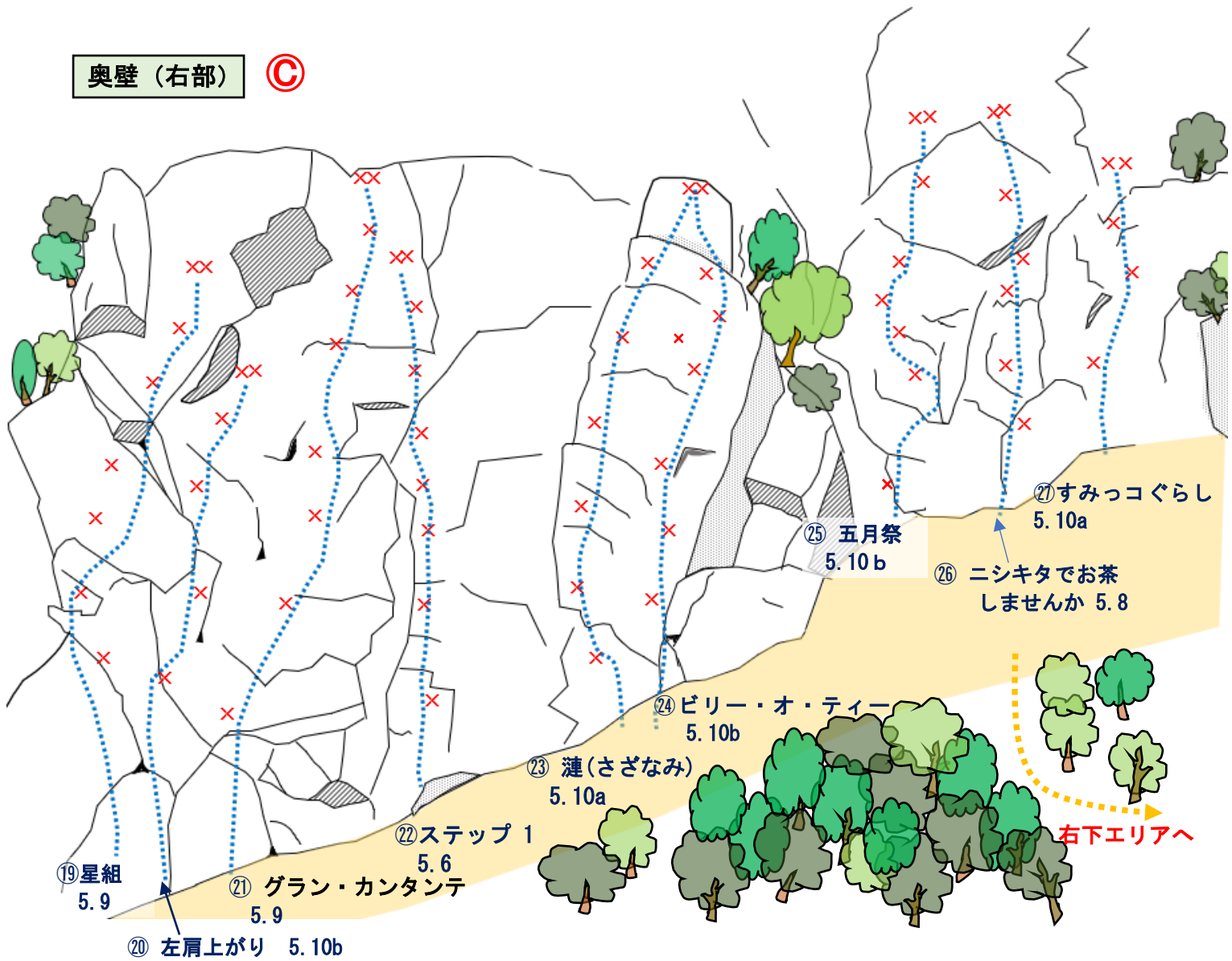
奥壁 Ⓑ (フェイス、カンテ)

- ⑩ 轍 5.10a B 6本 (long version 5.10c 9本)
(東秀磯)

ルート上の随所にレストできるポイントがあり、ホールドも豊富でやさしい。終了点から左にトラバースしていきハングを越えるロングバージョンはホールドが細かくて難しくなる。

- ⑪ ハンガー7 5.10d B 8本 (東秀磯)
一見、階段状に見えるルート。出だしや途中でピリッとした部分が出てくる。出だしからボルト 4本目までを左のカンテに出ずに登れば 5.11b。
- ⑫ ページターナー 5.10d B 8本 (東秀磯)
出だしは今のところ切株を使わざるを得ない。ところどころに段があって休めるが、段の間には持ちにくいホールドのパートもあり、総合力が試されるルート。
- ⑬ 坂武者 5.11b B 7本 (東秀磯)
下部 2ピン目をクリップしてから左のフレーク状のカンテを上がる。最上部は左に逃げず最終ピンに沿って登るが、その細かいホールドの処理が核心となる。

- ⑭ ツルタの冒険 5.11d B 8 (野田哲司)
バリエーション豊富なルート。核心部と緩い傾斜部が交互にあるため、レスト戦略が重要になる。下部の右側は岩が脆いので右に行き過ぎないように。
- ⑮ 生活の知恵 5.11b B 9本 (加藤遼)
凹角を登りルーフ上にあるチョックストーンを越えてから左のカンテに出る。全体的にホールドが細かいので見いだすことに気をを使う。上半分はカンテ沿いを登り、右には逃げないこと。
- ⑯ Beyond the chockstone 5.10d B 10本 (加藤遼)
下部は「生活の知恵」と同じ。ホールドの少ないカンテラインを避けて直上するルート。チョックストーンを乗り越えるあたりと最上部が核心部となる
- ⑰ ガーデنز 5.10a B 8本 (辻まい)
エリア中央のすっきりしたフェイスを登る。終了点手前は右からでも行けるが、かなり難しくなる。
- ⑱ トリトン 5.11b B 6本 (辻まい)
見栄えのするカンテにあるルート。切株から左のフェイスに移ってスタートする。ボルト 4本目からはカンテの右側を登る。(左に出るラインでは 5.10d)



奥壁 © (フェイス)

① 星組 5.9 B 6本 (東秀磯)

下部は前傾の強い部分を避けて、左から回り込むように登る。カンテを越えると傾斜が落ちてやさしくなる。

② 左肩上がり 5.10b B 4本 (加藤遥)

星組とグラン・カンタンテの間のホールドが乏しい部分を登る。出だしがトリッキーで最適なムーヴを見いだせないと難しく感じる。その上もホールドが細かくて悪い。上部はイージーな内容となる。

③ グラン・カンタンテ 5.9 B 7本 (東見和子)

出だしは傾斜が強くて難しく感じる。2ピン目からはしっかりと持てるホールドを選んでいけばやさしい。

④ ステップ1 5.6 B 7本 (東秀磯)

エリアでは最もやさしいルート。随所にテラスがあるので安定した体勢でクリップが可能。ウォーミングアップや初めてのリードに最適。

⑤ 漣(さざなみ) 5.10a B 6本 (東秀磯)

出だしはボルトの右側から入って、小ハンクを越える。ところどころでホールドが細かいが、傾斜が緩いので対応は難しくない。左側の岩は脆いので使用しない設定である。

⑥ ビリー・オ・ティー 5.10b B 6本 (東秀磯)

3本目の上に棚があるので休める。その上は凹凸の乏しい地形になるのでホールドを見出す力が必要となる。

⑦ 五月祭 5.10b B 5本 (東見和子)

スタートは左から入って、右側のカンテを回る。ボルト4~5本目が核心でホールドが細くなる。

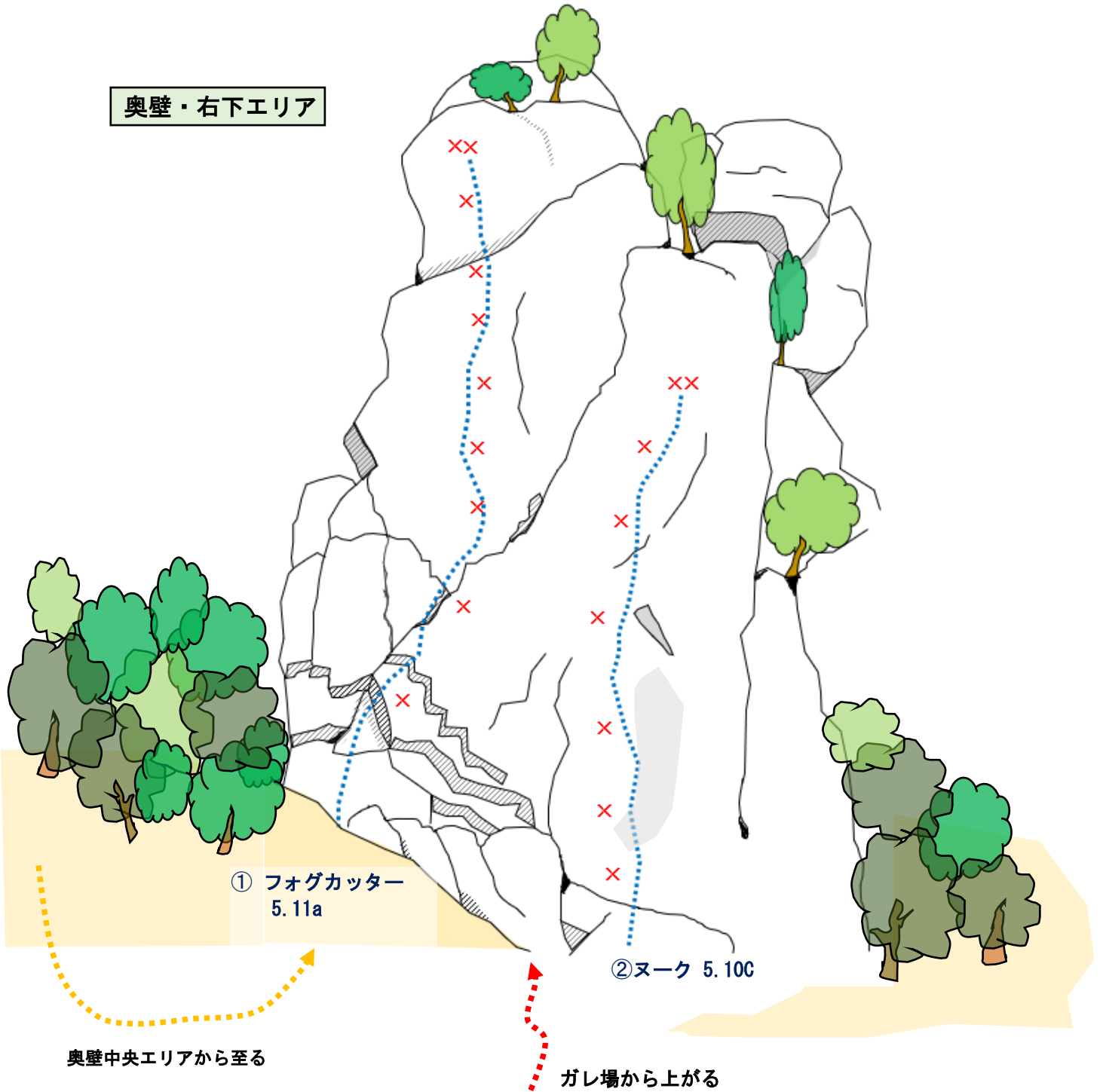
⑧ ニシキタでお茶しませんか 5.8 B 5本 (辻まい)

初心者にお勧め。ルート中にホールドが豊富な部分が点在するので、持てるホールドをしっかりと選んでいけばやさしく登れる。

⑨ すみっこぐらし 5.10a B 3本 (東秀磯)

傾斜はないが中間部ではホールドが乏しくなる。上部はホールド間隔が遠くなるものの簡単な内容。左右どちらからでも行ける箇所があるが、適切なラインを読まないに難しく感じる。

奥壁・右下エリア



奥壁・左下エリア（傾斜のあるスラブ）

① フォグカッター 5.11a B 8本 18m

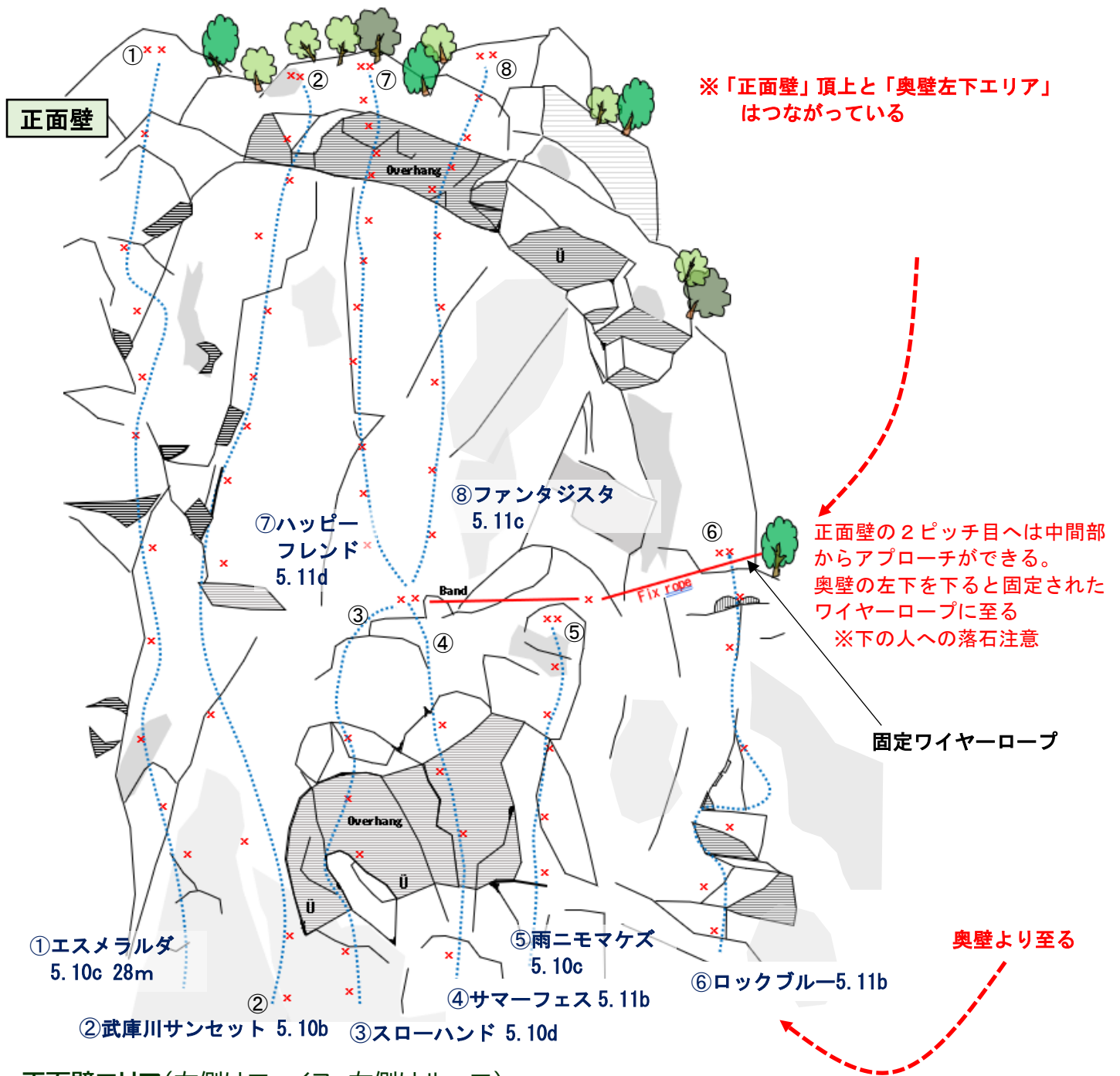
（東秀礒）

関西では最もすっきりしたフェイスに作られたルート。長さもある。下部はハング帯をなしているが、その上は終了点までフラットな面が続く。核心部はボルト3本から4本で細かいフットホールドを拾えるかどうかのカギ。終始フェイスを登り、左のカンテには出ない設定。

② ニューク 5.10c B 6本 10m

（東秀礒）

傾斜がなく、ホールドも多いように思われるが、意外とバランスが悪い部分が連続する。単調な外観に対して面白みのあるクライミングが体现できる。



正面壁エリア(左側はフェイス、右側はルーフ)

- ① エスメラルダ 5.10c B10本 (東秀磯)
適度にホールドが点在する好ルート。ピン間隔がやや遠めであるため、程よい緊張感があり、落ちてはいけない箇所での自制心が試される。ルート長は28mあるので、ローダウンは注意が必要。
- ② 武庫川サンセット 5.10b B12本 (辻まい)
すっきりとしたフェイスに引かれたルート。昔ハーケンで登られていたルートのリメイク版で最後は楽しいハング越えがある。※ローダウン時はロープの長さに注意
- ③ スローハンド 5.10d B5本 (東秀磯)
ボルト2本目の上は頭上に張り出したフレークに頭を押さえられる形になり、バランスが悪くハンガーが見にくいので注意。中間部の「左に張り出したフレーク」の処理がカギ。
- ④ サマーフェス 5.11b B5本 (東秀磯)
逆層状のハングを抜けるルート。下部のスラブは容易だが、ハングに入ってから一手一手が遠いの

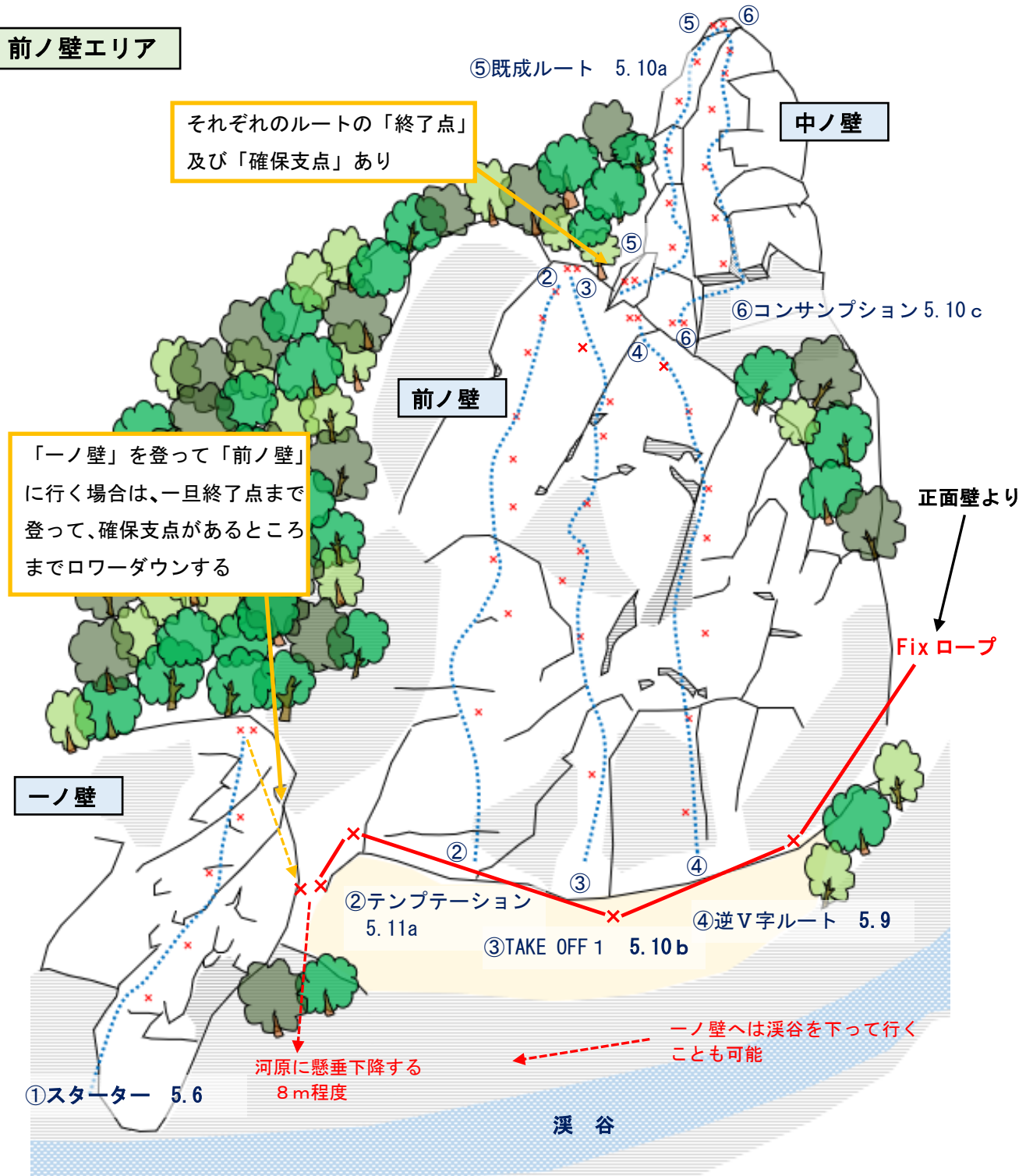
でパワーが必要となり、ダイナミックなクライミングとなる。

- ⑤ 雨ニモマケズ 5.10c B5本 (東秀磯)
岩の形状が変化に富んだ部分に引かれたライン。随所に効果的なホールドがあるので、しっかりと探し出せばグレード通りに登れる。
- ⑥ ロックブルー 5.11b B6本 (東秀磯)
エリアきってのトリッキーなルート。ボルト2~4本目の緩い傾斜面をわたって行くムーヴが面白い。下部でのグラウンドフォールに注意。2本目のボルトの左側にガバがあるので落ち着いて対応すること。

正面壁2ピッチ目(下部はスラブ、上部はルーフ)

- ⑦ ハッピーフレンド 5.11d B11本 (平嶋拓大)
下部のスラブがホールドに乏しく、バランス力が必要となる。上部は思い切りのよいクライミングで解決する。
- ⑧ ファンタジスタ 5.11c B9本 (木村伸介)
下部はやさしいが、ルーフ上のホールドが全く見えないため、オンサイトがむづかしいルート。

前ノ壁エリア



一ノ壁

- ① スターター 5.6 B4本 (東 秀磯)
短くてグレードが低いものの、内容のいいルート。
他のエリアとは異なる岩質なものも興味深い。

前ノ壁

- ② テンプテーション 5.11a B9本 (既成)
下部パートのホールドが細かくて、いきなり核心になっている。上部は快適なクライミングが楽しめる。
- ③ TAKE OFF 1 5.10b B8本 (既成)
一様な難しさに終始する好ルート。

※②と③の終了点は共有

中ノ壁

- ④ 逆Vの字ルート 5.8 B7本
下部はテラスと緩い前傾壁で構成される。
上部は傾斜が落ちて登りやすい。

中ノ壁

- ⑤ 既成ルート 5.10a B5本
出だしてカンテ付近の処理がトリッキー。
上部はやさしい。
- ⑥ コンサンプション 5.10c B6本
中ノ壁を右側に回り込んだところに確保支点がある。核心部の乗り越えにはフットジャムが効くが後頭部からの墜落に注意。

マルチピッチ

ルート名：航海日誌

1ピッチ目 [一ノ壁]

「一ノ壁」を登る。

※一ノ壁とつつきへは溪谷を下るか、「前ノ壁」の左下から懸垂下降する。

登った後、マルチの場合は中間部へローダウンする。

2ピッチ目 [前ノ壁]

3ルートのうちどれかを登る。

3ピッチ目 [中ノ壁]

2ルートのうちどちらかを登る。

4ピッチ目 [正面壁]

中ノ壁の終了点の先に既成ルート

5.10C 10m B8本がある。

ただし正面壁のとりつきまで懸垂下降

してルート長の長いルートに登った

ほうがハイライト的な要素が高い。

正面壁を2ピッチにして登るバージョン

もあるので、都合5ルートが選択できる。

5ピッチ目 [奥壁・左下エリア]

4ルートのうちどちらかを登る。

